

参考資料

分類名〔病害虫〕

参10	水稻高密度播種苗における灌注処理剤の効果
-----	----------------------

宮城県古川農業試験場

要約

水稻高密度播種苗に対する灌注処理剤（慣行比2倍濃度）の効果は、同播種条件苗の箱施用剤100g施用と同等であり、慣行苗における慣行施用と比較しても同等以上の効果がある。

普及対象：水稻を栽培する生産者（68,000ha程度）
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

近年、省力・低コスト化のため水稻育苗時に慣行の2倍量（250～300g）程度を播種する高密度播種苗が普及しつつあり、側条施用や箱施用剤の倍量施用以外の初期病害虫防除剤施用法である灌注処理剤の効果を確認したので参考資料とする。

2 参考資料

- (1) 水稻高密度播種苗における灌注処理剤は、慣行の2倍濃度（箱施用剤は2倍量）で、いもち病、紋枯病防除において、いずれも慣行播種苗の灌注剤、箱施用剤よりも安定した効果が持続する（図1、2）。

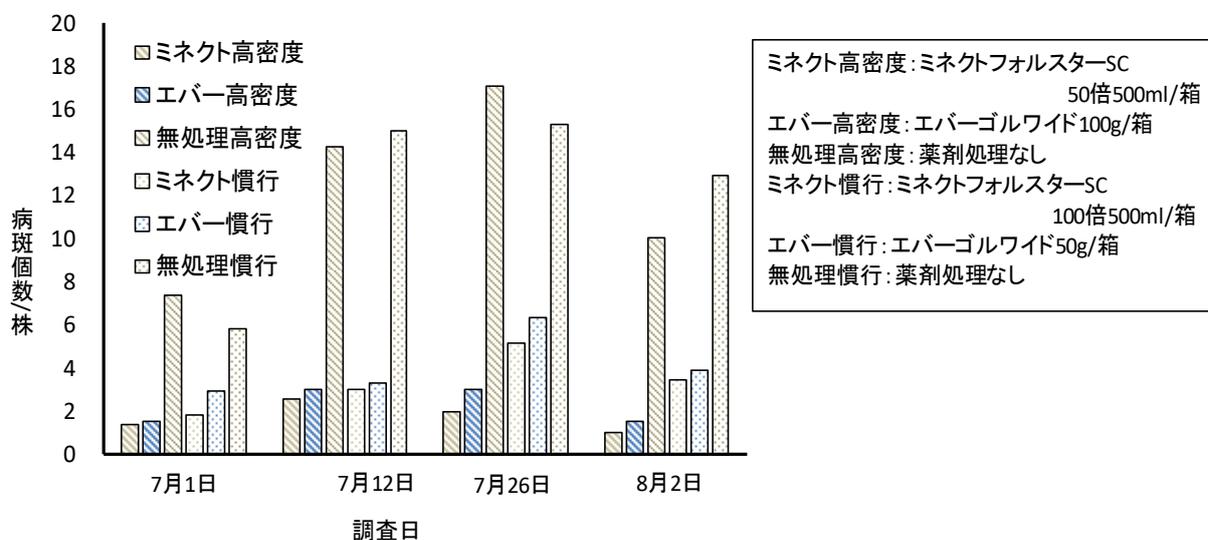


図1 処理別の株あたり葉いもち病斑個数（令和4年）

3 利活用の留意点

- (1) 本試験は令和4年に古川農試場内ほ場で実施、「ひとめぼれ」を播種（慣行：乾籾160g、4月12日、高密度：乾籾250g、4月19日）し、栽植密度（73株/坪）で5月12日機械移植した。
- (2) 使用した薬剤は灌注処理剤区（シアントラニリプロール・イソチアニル・ペンフルフェン水和剤、商品名ミネクトフォルスターSC、慣行100倍500ml/箱、高密度50倍500ml/箱 いずれも移植3日前施用）、箱施用剤区（イミダクロプリド・クロラントラニリプロール・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤、商品名エバーゴルワイド、慣行50g/箱、高密度100g/箱 いずれも移植当日施用）

- (3) いもち病は発生を促進させるため6月15日伝染源設置、紋枯病も発生を促進させるため伝染源を6月30日に散布した。葉いもちと紋枯病は7～8月にかけて、穂いもちは8月下旬に発病程度を随時観察した。
- (4) 本試験はいもち病は少発生、紋枯病は中発生の条件下で行われた試験である。

(問い合わせ先：宮城県古川農業試験場 作物環境部 電話0229-26-5107)

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 研究課題名及び研究期間
新農薬による病虫害防除に関する試験（令和4年）
- (2) 参考データ

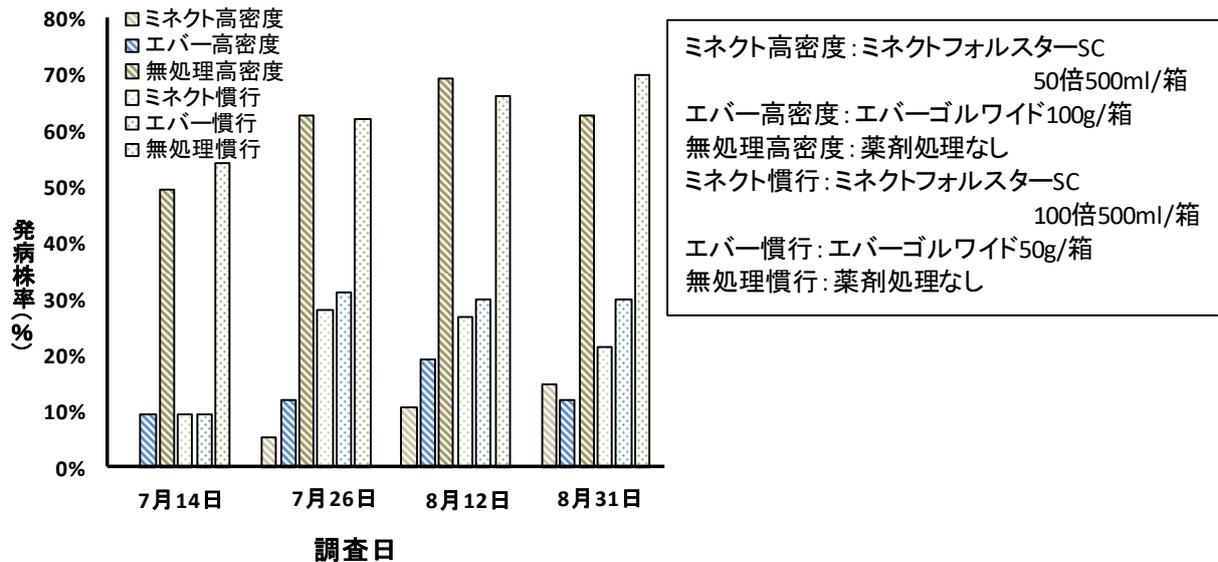


図2 処理別の紋枯病発病株率（令和4年）

表1 登録農薬情報（令和4年2月1日現在）ミネクトフォルスターSC（いもち病、紋枯病）

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲（箱育苗）	いもち病 紋枯病	100倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 0.5L	移植10日前～移 植当日	1回	灌注
稲（箱育苗）	いもち病 紋枯病	高密度には種する 場合は100ml/10a (育苗箱(30×60 ×3cm、使用土壌 約5L) 1箱当り5～ 10ml(希釈倍数50 ～100倍))	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 0.5L	移植10日前～移 植当日	1回	灌注

- (3) 発表論文等
 - イ 関連する普及に移す技術
高密度播種における種子処理剤を利用したいもち病防除（第96号指導活用技術）
 - ロ その他
なし
- (4) 共同研究機関
なし